



①ロータリーが整備されている昭和29年の様子
(現在の織協ビルの辺りから南西方向を撮影)



②2代目織協ビルなどが写る昭和46年の様子

BACK to that FUKUI

あの日の福いネ!

福井の昔の写真を、学芸員の解説を添えて紹介します。

大名町交差点と織協ビル

①は、昭和29年の大名町交差点の様子です。「大名町」という名前は、江戸時代、福井藩の家老を務める上級藩士の屋敷地が広路（現在のフェニックス通り）の西側に広がっており、大名級の家禄をもらう重臣が住むその地区を「大名町」と呼んだことに由来します。

写真を見ると、交差点に信号がなく、中心の島の周りを一方向に周回するロータリー（環状交差点）となっています。このころ、交差点にはすでに、福井銀行本店、福井県織協ビルなどが立ち並んでいました。福井鉄道の線路も並設され、島には福井市の市章があらわれるなどユニークな交差点でしたが、交通量の増大により、昭和38年に改修されました。

②の写真左手には、昭和41年に建て替えられた2代目の織協ビルがそびえています。建物内には、織維に関する団体や織維関連企業の支店が入居し、スーパーや飲食店、京福バスのバスターミナルなどもありました。また、テナントにニューまるせん専門店街（旧まるせんデパート）があったことから、当ビルは「まるせん」の通称でも親しまれました。

令和3年には、レストランやクリニックスが入居する3代目の織協ビルに生まれ変わり、現在は、隣接する立体駐車場やホテルの建設が進められています。

BOOK LABO

図書館司書が本を紹介します。

今月のテーマ

「広がる世界」

『くらべる世界』

おかべたかし文 山出高士写真

(東京書籍)

「朝ごはん」「じゃんけん」「ソーセージ」「城」「庭園」などの33項目について、世界の国々の中から2か国を写真で比べ、どのような違いがあるのかを紹介した本。素材の違いをおかゆの朝ごはん、出し手が4種類あるじゃんけん、宗教を反映しているソーセージなど、違いや理由はさまざま興味深い。身近なものから世界の文化や習慣にも触れることができる1冊。



『日本語とにらめっこ』

「見えないぼくの学習奮闘記」

モハメド・オマル・アブディン著
河路由佳聞き手・構成 (白水社)

スーダンの大学生だった全盲の著者は、留学生として福井県立盲学校に通うことになった。周りの人に応援され、点字と、耳で聞いて覚える記憶力を武器に、日本語と格闘する。漢字を学び、日本語学の録音を聴き、福井弁と「おやじギャグ」を使って会話することで日本語の幅を広げていく彼の姿は、努力次第で自分の世界を豊かに広げていけることを教えてくれる。



福井が舞台!